



けやき倶楽部は、千葉大学公開講座で出会った受講者の中から継続して学びあうための生涯学習組織をつくりたいという有志が集い、大学の積極的な支援を受けて誕生しました。平成7年10月の創立から20周年を迎えたことを記念して、本号は記念行事を中心にまとめました。

## 20周年記念講演会

元学長の古在先生と千葉大学の関係者をお招きして、12月13日(日)午後1時30分より千葉大学けやき会館レセプションホールにて開催されました。



### ☆開会挨拶 千葉大学 理事 中谷晴昭先生

本日は創立20周年、誠におめでとうございます。一言に20年と言いますが、その間生田会長を中心に多くの方が熱心に生涯学習に取り組み継続してきたことに心より敬意を表します。この間千葉大学も大きく変わり、世界の大学と伍して卓越した教育研究をしていく決断をした一方で、今年度より従来の地(知)の拠点事業(COC)に加え、地方創生推進事業(COCプラス)を獲得しており、社会貢献の一環と

して「生涯学習」を支援してまいります。皆様には長い間公開講座のサポートや SEEDS 基金への多大なご寄付を頂き厚く御礼申し上げます。今後も健康を維持しつつ学んだ事を地域に還元、若者の育成にもお役に立てたい。大学も学生の優れた才能を伸ばし国際社会においても活躍できる逞しい若者に育てる所存ですので、今後も温かく見守りご支援いただきたい。けやき倶楽部の益々のご発展をお祈りいたします。



### ☆講演 千葉大学元学長 古在豊樹先生

#### 「地域社会は何ができるか」～うらやす市民大学と柏の葉地区での経験を踏まえて～

大学を定年退職して以来、かねてから関心があった、「地域市民としての自身の生きがい創出と地域を通じての幅広い社会貢献の統合」のあり方を模索してきた。その経験の一端を述べて、皆様の教えを受け、またご意見をおうかがいたい。

けやき倶楽部創立10周年の記念行事の一環としての西千葉での植樹祭に2005年に立ち会う機会を得たことは、自分の定年退職後の生き方を考え始めるきっかけの1つとなった。この場を借りて感謝の意を表したい。

2008年に西千葉を離れて、2005年に開業したつくばエクスプレス線の柏の葉キャンパス駅近くに住居を移し、そこでの第2の人生を始めた。その1つが、千葉大学・柏の葉カレッジリンク(市民と大学人らによる地域づくり、生きがい創出活動)の立ち上げへの参加である。その拠点である環境健康フィールド科学センターは、2003年に設置された、地域貢献・領域横断型の実践的な教育研究センターである(初代センター

長は筆者)。このカレッジリンクの活動は現在も人材の新陳代謝をつづけながら続けられている。

2008年10月から、うらやす市民大学の設立準備に関わり、2009年6月の創立から2014年5月末までうらやす市民大学の運営に学長として関わる機会を得た(現学長は、宮崎清・千葉大学名誉教授)。この間、市民科学・当事者科学について考察し、その実践に向けて努力する機会を得た。浦安市では、中学2年生を対象とした「ふるさとうらやす立志塾」の塾長も4年ほど前から務めていただいている。

2010年ころから、筆者の教員時の共育研究活動に関連が深い「植物工場」に社会的関心が集まり始めた。柏の葉キャンパスの上記センター内で植物工場拠点事業(農水省補助)が2011年6月に始まったことを受けて、その支援を主目的の1つとした、NPO法人「植物工場研究会」を設立した。そして、千葉大学と連携して、文化度が高い『「農」のある街』に柏の葉地区を近づけるべく諸活動を行っている。その中で、ケア学および文化(culture)の源泉としての農耕(culture)

への関心を深めている。また、最近では、柏の葉地区での「未来こども学校」の活動を応援フェローしてお手伝いしている。年齢を重ねるに連れて、次世代への関心が高まりつつある。

他方では、2015年には、バングラデシュ、ネパール、アブダビ、パナマ、中国、米国、台湾、韓国を訪問し、農業に関わる協力・共同をさせていただいていること

は喜びである。並行して、3.11 被災地の農業復興にも微力ながら関わらせていただいていることで、元氣をもらっている。上述の諸活動が、自身の心身の中で矛盾なく統一され、全体として生きがいを感じつつ、個人、地域、アジア、世界の幸せが少しずつつながっていることを感じられることは、人生の最終目標とつながり、大きな喜びである。

#### <講義を拝聴して>

ゆっくりと力強い口調でお話頂き、先生の思いが伝わってまいりました。退職後はもっと自然との付き合いを大切にしたい、またそれが生き方として重要との深い思いが現在の柏の葉地区に文化度の高い「農」のある街として具現化されつつありました。農業が組み込まれている都市が21世紀最も先端的文化都市—農耕(culture)なくして文化(culture)なし—と熱っぽく語られたお姿が印象に残りました。お話の中で「市民科学」(当事者科学)(⇔専門家科学)や「ケア学」のお考えについても触れられ、私たち一人ひとりが主体となって創り上げていくことの必要性、そのための記録の重要性についても述べられました。

千葉大学・柏の葉カレッジリンクへの立ち上げに始まり、うらやす市民大学の設立準備への関わり、その後のNPO法人「植物工場研究会」の設立と、正にこれからのけやき倶楽部の歩む道に示唆を与えていただいた20周年に相応しいご講演であったと感じました。皆様はいかがでしたでしょうか。先生のご健康と今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。(M・U)



<先生のご著書>  
2008年、祥伝社



#### ☆講演 生田幹男 会長 「けやき倶楽部の20年」

私事ですが、わたしが千葉大学の存在感に接したのは東京から稲毛に転居した頃です。もう少し千葉を知りたくて会社の若手(千葉大卒)に頼み稲毛寮生を拙宅に呼び(6名)千葉を話題に遅くまで盛り上った体験でした。そして千葉大の公開講座に折々参加することになりました。平成7年春の講座「高齢化社会」が終了した時、受講者から「聴き放しはいかがなものか」の声が出て、大学は早速に「生涯学習友の会」の設立の準備世話人会をスタートされました。その応募した8名の市民の中に私もいました。

担当の教務課長・大学教育開放係長も協議に参加、会をどんな形にするかの論点説明、市民サイドの質問など交わされました。会則はほぼ現行のものです。会目的については「地域文化の形成に寄与する」が加えられました。これがけやき倶楽部の社会性を持った発展型の活動を目指すことに繋がりました。会の名称は、当時の丸山学長が大学のファンクラブが出来たと言われたことで、「けやき倶楽部」。名は体を表わすように「倶楽部」というものの良さを活かすことになったのです。

創立総会(10月14日)の前後からのマスコミ報道、各種PR誌の取材攻勢は巨大な象牙の塔とも思われていた総合大学千葉大が特別の時だけの開かれた大学ではなく常に市民活動の受け皿となる姿勢を明

らかにした驚きと共感だったと思います。けやき倶楽部の発展はこの千葉大学の先進性に支えられました。同時に倶楽部自体に発展の要因があったと思います。①学習領域を自主的に拓げられる自主学習グループ制を採り、これに応えたグループのメンバーの努力。②授業枠、ゼミなどへの会員の参加で学生との対話の舞台が作れた刺激。③女子力、全体行事の計画・折衝で見せた女性(幹事)の積極性、頑張りなどを思い出します。

このような実績を重ね10周年に植樹した櫟の生々した様子は、けやき倶楽部のこれからを思わせるものと感じたものです。

この20年の中で国立大学法人化(大学の個性化)へのけやき倶楽部としての対応は担当幹事の努力で乗り切り、この折に一部に言われたひとつの問題(個人的対応)は東日本大震災後のバックアップ体制(幹事会の中のチーム制)構築に活かされました。その展開の中、事務処理のIT化が進んでいます。

けやき倶楽部はそのロゴにあるように「生涯学習を切り拓く」という創造を目指すとともに、人間の多様性を認め、誰でも自分の目標に向かって挫けず、急がず(古在先生のお言葉)進むことを皆の理念として持ち続けたいと願っています。そして千葉大学とけやき倶楽部がこの共通理念で結ばれることを私は信じております。



# ☆ 20周年記念パーティ ☆ 講演会后、けやき会館内「コルザ」にて行われました。



コルザ前にて会長、副会長



中谷先生の乾杯挨拶



古在先生も参加されました



皆さん楽しそうです



## 20周年記念 歴史グループとの共同見学会 ～～ 歴史散策「国宝金錯銘鉄剣とさきたま古墳群見学の旅」～～

- 日 時:2015年10月20日(火)
- 見学先:さきたま古墳公園、古代蓮の里、忍城
- 参加者:83名

バス2台にて7時半に千葉NTT前を出発した。バスの中では歴史グループ会員から「古代へのお誘い」と「古代ヤマト政権の成立とワカタケル大王」「金錯銘鉄剣の金象嵌銘文の分析」について資料を使った解説があった

予定通りバスは10:30頃、さきたま古墳公園に到着した。1号車はここでAコース(約2Km、33名)Bコース(約1Km、8名)の2班に分れて古墳公園の散策から始め、2号車(42名)は全員Aコースで博物館を先に見学した。ここで各班に二人の案内者(ボランティア)

が同行してくれた。約1時間後、1号車と2号車とで散策と見学を交替した。博物館入口の手前に埼玉県名の由来がこの地にあることを記した記念碑があり、博物館には今回の見学の目玉である国宝「金錯銘鉄剣」が展示されており、その他、帯金具、勾玉、神獸鏡などの国宝が見られた。



約2Kmの古墳公園散策は丸墓山古墳、稲荷山古墳、将軍山古墳、二子山古墳と巡り、天気も良く、心地良い散策であった。関東にこのような大きな前方後円墳がある事は(特に大阪育ちの私には)不思議であった。これは古代のヤマト政権との繋がりを示している証拠であると思われた。将軍山古墳展示館では埋葬された状態が復元されており、その周りには千葉県で採取された房州石が一部に使われていた。

午前の予定終了後、全員で集合写真を取り食事処に向かった。食事は概ね好評のようであった。



午後は「忍城」と「古代蓮の里」を1号車はその順に、2号車は逆順に分れて回った。

古代蓮の里は、この時期は蓮こそ見られなかったが、展望台から見た「たんぼアート」は素晴らしかった。日本一の面積を誇り、ギネスブックに登録されたばかりとのことであった。茶色の古代米と数種類の品種が

予め決められた絵柄に沿って田植えされ、今の時期は天女を始め、見事な天空の絵になっていた。毎年、図柄は変えられており、過去の図柄も写真パネルで見られた。最後に廻った忍城は映画「のぼうの城」の舞台となったところである。戦国時代の豊臣方武将石田三成の水責めにも耐えたという。小田原城が先に落城したため、開城したそうである。



帰路のバスの中ではアトラクションが行われ、おおいに盛り上がった。帰路は順調でほぼ予定の時刻に千葉に帰着した。

一日中、好天に恵まれ、トラブルもなく良い見学会であった。しかし、遠くが霞んでいたため、富士山や、赤城連峰などが臨めなかったことだけは残念であった。

(K・M)

### ☆五十嵐 紀子会員 「私とけやき倶楽部」

けやき倶楽部 20周年を迎えられ、設立当初からの千葉大学のご理解ご支援のもと、生田会長の熱意と指導力、運営に関わられた折々の役員の皆様、自主活動グループ世話人の方々に感謝いたします。深い知識とユニークな考えの会員が揃い、各学習グループの活動は本来の目的を通して多くの出会い交流自己発見の機会を得、楽しく活動を継続しています。

まもなく、小春近しという今日も空を見上げている足元の草木と。高砂芙蓉が品良く白い小花をつけ、四季咲きの薔薇、娘と同年のゼラニウムも。そしてシクラメンがこれからは私の出番と言いたげに花を咲かしている。塀に止まりたがっている赤とんぼが目の前に。「花鳥諷詠」折にふれて自然や生活の中の思いを喜んでことばに出してみる。ある時箱いっぱいのもら豆

が宅急便で。その時の感動を「そら豆に元気を問わる宅急便」と詠みこの句を持って「けやき俳句の会」に初参加、そら豆に元気を見たとの発見が素晴らしいと先生の評価をいただき、こうして私のけやき倶楽部での活動が始まった。何と入会后 10 年も過ぎていたのだ。

長期休暇時の我が家は全員集合の宿泊所となり、無事帰途の句「子等去りて箸十膳の晩夏光」。また、子規忌「獺祭忌(だっさいき)」に友と銘酒持参時「子規の忌や銘酒獺祭賑にぎし」。熱心にご指導下さる若泉真樹先生が言われます。俳句は自分探し、もう一人の自分に出会えると。創造性、感受性を豊かに今後も継続したいと思います。十周年時の記念樹「樺」も遅しく幹を伸ばし枝葉も豊かに広がっています。

(原稿受領 11月)

### ☆布施 徳蔵会員 「けやき 20周年」

けやき倶楽部20周年と聞き、歳月の早さを感じます。何事にも興味、関心を持つ私にとって、当倶楽部の多彩な企画に、学ぶ意欲を満たしてきました。20年を迎えた今、私の気持ちは入会当時と変わっていません。けやき倶楽部の歴史は、私の生涯学習の歴史でもあります。発足当初より参加させていただき、現在までなんとか継続しています。当倶楽部では、諸先輩と親しく学ぶ喜びに、感謝の気持ちで一杯です。自主学习部会は当初から企画され、哲学宗教部会もその一つでした。部員の皆さんの真理に対する強い探求心に支えられ、現在まで堅実にその歩を進めています。哲学、宗教の一般的印象は、難解という言葉だと思います。

ます。その理由は理解のための手法が多種多様で、時に混乱するためと思います。諦めることはありません。挑戦に値する学問だと思います。20年間の継続により、知識というよりも何か直覚というような理解力が身に付いた気がします。大切なことは、自ら問題点を発見し、自ら思考し、自ら結論を出すこと。これこそが大切なことではないでしょうか。いま、新たな挑戦があります。それは知の共有です。私にも蓄積された「何か」があるはずで、これがあの人に刺激となれば私の喜びです。「学び、教え」がけやき倶楽部の大きな目標です。目標に向かって、今新たな一歩を…。

### ☆松島 敬之会員 「ことばのつらなり」

現役生活の終盤、新しい発見もなく、なぜか焦っておりました。職場は消費されるばかりの「言葉」で満ち、それが壁となって立ちほだかっていたからでしょう。そのころは、“自己実現”しか念頭になく、突破すべき新しい「ことば」を探していたのです。そんな時、発足したばかりの「けやき倶楽部」を知り、早速入会しました。

ある日ある人が何気なく発したことば、「四住期」。そのことばがその後の「けやき」生活を通じてのキーワードになりました。その考え方が自分の身に合っていたのは非常に幸運なことでした。人生にも折返し点があり、その後半は“自己放棄”の営みである、ということです。いかにして己の内の自我という主人を追い出し、己の内に虚空をつくり出すか、ということです。

最近出会ったことば、「笑顔は反射する」。私には青空のギラギラした日の光は眩しすぎます。闇に浮かぶ月のあかりはわが心のざわめきを鎮め、自由にしてくれます。また、ほほえみを返してくれる赤ん坊の瞳に出会うと、ジグソーパズルの最後のピースが飛びこんできたようで、心を透明にしてくれます。

そして、先日出会ったことば、「命は天運に任せて、惜まず、厭わず」、「時をのみ待つべし」。これからは、「飛花落葉の美」を愛でることと思ひ定めることができました。

これらのことばはみんな、「けやき」生活につらなっていたからこそ出会えたものです。みなさん、どうも有難うございました。



# けやき倶楽部が授業を通じて学生と交流

## ～文学部「現代社会で働くこと」、教育学部「私の生涯学習」～

けやき倶楽部事業計画の大きな柱の1つである千葉大学の授業への協力として、本年度も講師を派遣しました。いずれも学生は熱心に聴講し、今後社会に出ていくうえで大いに参考になったと好評でした。

### 文学部授業「現代社会で働くこと」

■日時: 2015年11月12日(木)、11月19日(月)、11月26日(月)の3日間

■担当教授: 山田 賢文学部長

■派遣講師: 渡邊雄子会員、落合 侖会員、豊田 昂会員

■参加者: それぞれ 35 名前後

★渡邊講師★ 「会計事務所の仕事」のテーマで自身の人生を振り返り、この仕事を選んだ経緯、会計事務所の仕事内容、経験を通じて培われた“負けてたまるか！明日はきっと良いことがある”の精神、これから社会へ出ていく学生へのアドバイス等を熱っぽく講義されました。

★落合講師★ 「海外で働くこと(東南アジアで仕事をして)」のテーマで、まだ海外に行くことが一般的でなかった 1960 年代に、入社わずか2年目で治安の悪いフィリピンのミンダナオ島に赴任し、南洋材の開発と輸入にあたってきた経験、南洋材開発の推移、アセア

ン諸国に対する日本の ODA について、イスラム教徒の世界で暮らして得られた体験、これらから得られた教訓から学生に伝えたいことなどを熱心に話されました。

★豊田講師★ 「海外で働くこと(アメリカ)」のテーマで合成紙の製品開発・製造について技術者の立場から講義されました。合成紙とは、開発の経緯・困難さ、アメリカで生産することになった理由、アメリカでの生活の苦勞と参考になったこと、学生に期待する心構えなどをわかりやすく話されました。



### 教育学部授業「私の生涯教育(生涯学習を実践している人から学ぶ)」

■日時: 2015年11月18日(水)

■担当教授: 長澤成次先生

■派遣講師: 荒 薫会員、金子篤正会員、鹿島春海会員

■講義の進め方: 各講師がそれぞれ 15 分話し、その後学生から質問を受ける形式

■参加者: 19 名

★荒講師★ 1974年2月、先にアメリカに赴任にした夫の後を追って、生後5カ月の長男を連れてロスへ移住した。渡米後、1年4カ月で長女を出産した。この体験を通し米国と日本の違いを痛感した。日本と違い、病院も医者も合理的なシステムで動いており、結果的に流れに乗って出産ができた。インターネットの情報などない時代に異国で夫婦のみで初めての育児をすることは家族の土台を築くのに非常に良かったと思う。

★金子講師★ リタイア後、四街道市の教育委員を2期8年、1期は教育委員長を勤めた。生涯学習の心構えとしては、①リタイア後の20年間は現役時代と同様に面白い ②リタイアの5年ほど前から、生活設計をイメージしておく ③リタイア後は過去を捨て、ゼロから再スタートする。そのための3要件としては、①学びを楽しむ ②人と交わる ③体験を生かす。生きている限り、体力、気力に応じて学ぶ、それが「生きがい」である。

★鹿島講師★ 1971年会社(キッコーマン醤油)からアメリカ新工場新設のため、アメリカ赴任を命じられた。外国勤務など考えたこともなかったので予想外の出来事であった。当初、米国製品の品質評価は毎月最下位であった。生産量が少ないので、火入れ工程の温度低下が原因と推測し、火入れ温度を数度上げた結果、米国製品が第一位となった。嬉しかったが、無断で製造基準を変えようとは何事かと、本社からきついお叱りを受けた。この工場の生産量は飛躍的に伸び、今や、世界最大の醤油生産工場となった。2013年創立40周年を迎え、記念式典が開催された。招待を受け、古い友人とも再会し、楽しく、懐かしい訪米であった。

＜学生の質問への回答＞

やらないで迷うよりもやってみる事の方が大切である。外国への移住も行ってみれば何とかなる。特に若い時は失敗を恐れなくて頑張ってみる勇気が必要であろう。



## ☆ SEEDS 基金への寄附について

創立 20 周年記念事業の一環としてお願いした寄附金 50 万円あまりと年次総会での募金、平成 27 年度事業予算からの拠出金を合わせた合計 588,049 円を一括して大学に納付しました(12 月 3 日に会長、副会長の 3 名が基金室へ持参)。ご協力ありがとうございました。

## ☆ 学習グループの活動より(一部紹介)

HPではスライドショーや動画が見られます

### ●文学・芸術グループ



- ・12 月 けやき落語会  
「千葉大学落語研究会の学生さんが出演」
- ・1月(予定) 読書会  
小川洋子著「薬指の標本」  
新潮文庫

### ●パソコンクラブ



- ・12 月 会員発表会
- ・1月(予定)「パソコン何でも相談会」「パソコン基礎講座ワード 第2回」「お役立ち情報-Windows10 について」

### ●国際理解グループ



- ・12 月 異文化交流実習  
「折り紙講習と百人一首カルタ取り」
- ・1月(予定) 中村元大使を招いての国際理解勉強会

### ●けやき歩こう会



- ・12 月 「神宮外苑&北の丸公園・紅葉ウォーキング」
- ・1月(予定)「習志野・七福神巡り初詣・ウォーキング」

## ☆ ホームページより

「会員のページ」では皆様の投稿をお待ちしています



海野会員の写真作品



北原会員のパソコン絵画作品



森山会員の写真作品

## ☆ 今後の行事予定

### ●公開シンポジウム

「首都直下地震を生き抜くために  
～災害時の医・食・住を考える～」

日時:2016年2月13日(土)13:00~16:30

会場:千葉大学けやき会館

主催:千葉大学、けやき倶楽部

後援:千葉県、千葉市

### ●会員発表会

発表者:湯浅荘三郎 会員

日時:2016年3月4日(金)13:30~15:30

会場:千葉大学マルチメディア会議室

[発表会の後、懇親会が予定されています]



公開シンポジウムは会員以外の方の参加も OK です。  
ご家族、ご友人、知人の方もお問い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

### CAM 第 61 号 (2016 年 1 月)

発行:千葉大学生涯学習友の会 けやき倶楽部

ホームページ <http://chibadaikeyaki.com/>

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学教育企画課気付

Tel : 043-290-2154

編集担当:幹事会広報チーム

### ところで、CAM って・・・?

カム? キヤム? キャン?

シーエーエム?・・・

答えは→ campus の CAM です。

けやき倶楽部が生涯の学びの場となることを願って名付けられました。